

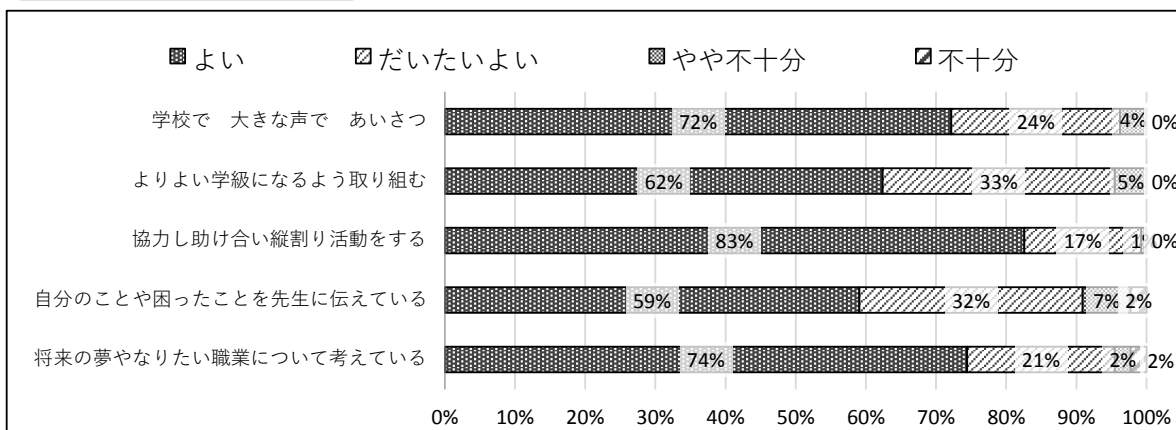
I 思いやりの心 たくましい心

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
人を思いやり、助け合う心情と態度を醸成しながら、自立への基礎をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	あいさつについては、校内のあいさつはよくできている。しかし、校外では、積極的にできていないところもあるようだ。“だれにでも”というところをもう少し的を絞って取り組むことも考えるとよい。ハートタイムについて、友達に自分のよいところを見付けてもらったり、友達のよいところを見付けたりと、この活動を通して、周りの人のよいところを目を向けるようになったことが評価できる。
	年度			

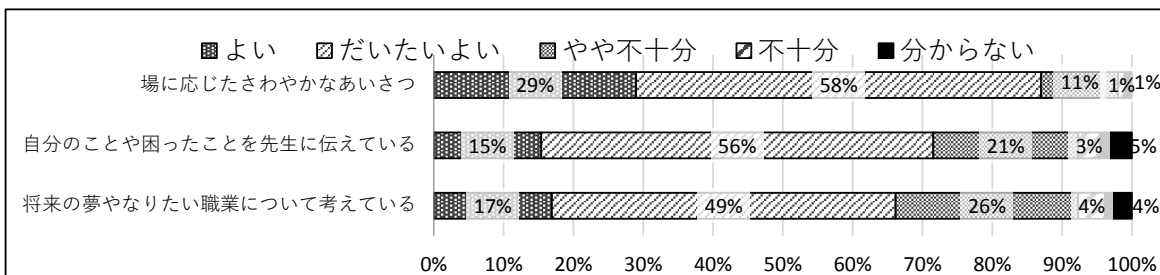
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 (1)校内でのあいさつは、振り返りカードでの意識付け、あいさつ運動やあいさつボランティアの取り組み、あいさつがよい児童の放送での紹介などで、進んであいさつをする児童が増えた。特に、あいさつ運動は、学級、縦割り班、町内と、様々なメンバーで行ったことで、同学年だけでなく、異学年の児童ともあいさつするようになった。今後は、「いつでも どこでも 誰にでも」を合い言葉に、児童会や学級での話し合いなどで、さらにあいさつの輪が広がっていく取り組みを考え、取り組ませていきたい。 (2)学級会で決めた学年テーマを意識しながら、様々な活動に取り組むことができた。また、互いを知り仲良くなり、仲間意識を深めるための学団集会在、学団の上の学年を中心に企画し、実践されており、学団の絆を深めている。 (3)委員会では、児童会テーマのもと、各委員会の6年生を中心に意見を出し合い、常時活動や児童集会などの活動内容を決め、主体的に取り組んでいる。活動のお知らせや呼びかけは、集会や給食時間の放送、ポスターなどを使って、工夫して行っている。今後は、さらに児童会テーマや委員会の活動目標に迫り、活発な活動となるよう、活動の見直しをしていきたい。縦割り活動の協力については、「よい・だいたいよい」が99%と前年度と同じくとても高く、異学年と仲良く協力して活動するよさを感じていることが分かる。今後も異学年が楽しく交流できる取組を考えていきたい。 (4)(5)児童理解は、日常観察の他にいじめアンケートを実施し、その後児童一人一人と教育相談を行っている。それが、いじめの早期発見や対応、教師に話しやすい雰囲気作りに繋がった。様々な問題には、全職員で協力して対応、解決することができた。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣	(1)場に応じた言葉遣いとさわやかなあいさつ	振り返りカードを活用した自己評価と実態把握 あいさつ運動の実施 ハートデーの実施	3	
2 集団生活・集団活動	(2)認め合い、高め合う学級・学団	学級経営・学団経営の充実 学級活動や学団活動、行事における活躍の場の設定と適切な称揚	4	
	(3)協力し、支え合う異学年集団	児童の考えを生かした児童会活動の充実 縦割り班による活動(清掃、委員会活動、児童総会等)	3	
3 児童理解の充実	(4)実態把握・教育相談	いじめアンケートや教育相談週間の実施と活用	4	
4 組織的な生徒指導	(5)指導支援の充実	児童を語る会や就学指導委員会、ケース会議の充実と全職員による支援体制の確立 スクールカウンセラー等外部機関と連携した支援	4	

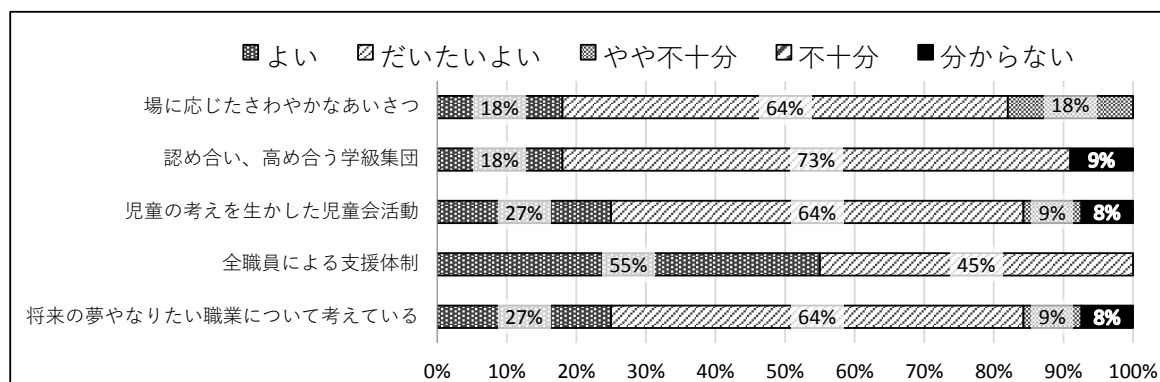
児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



職員へのアンケート結果



あいさつ運動：小中合同あいさつ運動も行っており、地域全体で共通理解を図りながら取り組んでいる。



学団集会：学年目標を達成するための取組を伝え合ったり、交流活動を通して仲を深めたりしている。



児童集会：委員会ごとに重点的取組について発表し、全校へ呼びかけをしている。

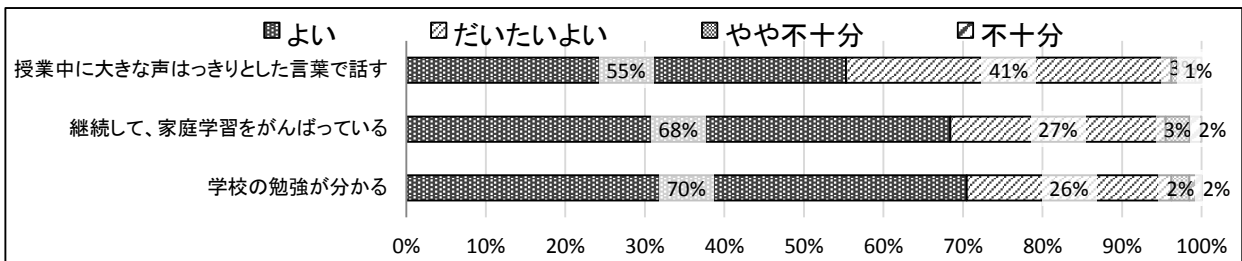


II 基礎学力の定着

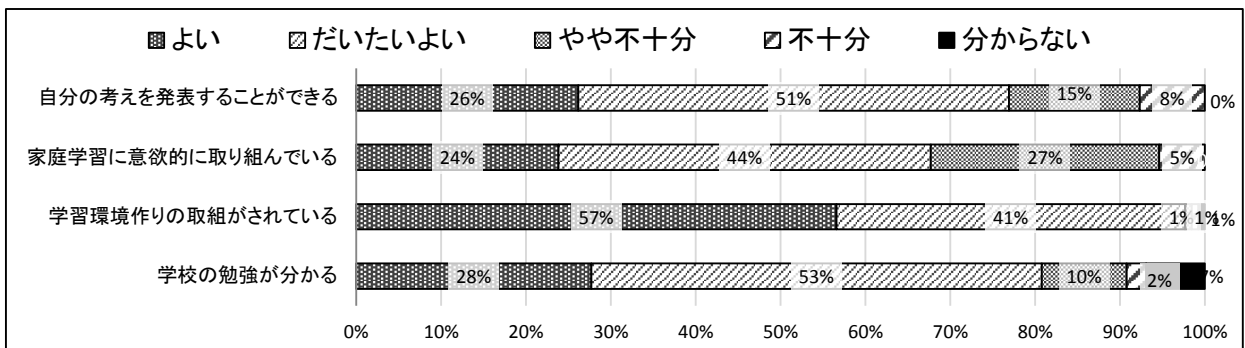
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基礎学力の定着と表現力の育成を通して、主体的に学び合うことよさを実感できるよう工夫している。	前期	おおむね良好	おおむね良好	ハンドサイン、リレー発表でたくさん発表できていたことがよい。人に関わろう、みんなで学び合おうとする姿勢も見られた。考えのつなげ方や反対意見の取り上げ方を工夫し、さらに授業を深かめてほしい。課題に主体的に向かうようになっている。タブレットで自分の考えを表現するなど、話す・書くなどで多様な学び方が認められている。ICTの長所と短所を踏まえ、有効に活用してほしい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>(6) 基本的な学習習慣の形成のため、学期はじめに「学習の約束」強調週間を設定した。張りのある声で話すことができるように、話し方については「アタックスタート」に重点を置いて取り組んだところ、話し方の項目で96%の児童が「よい・だいたいよい」と答えた。引き続き、児童が「学習の約束」を意識することができるように、目標を焦点化した呼びかけなどを行っていく。家庭学習では、継続してがんばっていると答えた児童が95%だが、保護者アンケートからは自分から取り組んでいる児童が少ないことが分かる。友達のノートを参考にするなどして、主体的に家庭学習に取り組むことができるように、定期的に全校ノート展を行っていく。</p> <p>(7) 振り返りの時間を確保し、思考の再構築を図った。より生活に生かすことができるように作り直した振り返りの視点を提示することで、授業前と授業後の自分の変化やこれからの学習を意識して振り返りを行うことができるようになってきた。また、考えがあっても発表することができない児童が多いことから、ICTを活用した話し合い活動だけでなく、自分の考えを付箋に書き発表に生かすことなどに取り組み始めている。全ての児童が、自分の思いを伝え合うことができるように発表方法を工夫していく。</p> <p>(8) 学びのあとが分かる掲示や、取組の参考となる作品の掲示を行っている。図書活動では、読書ボランティア「ミラクルバナナ」の読み聞かせを行い、本に興味をもつことができるようにした。また、栗盛記念図書館の司書の方に来ていただき、書架の整理をしたり、「友情」についてのおすすめの本コーナーを作ったりしてもらった。花壇や学習園・学習田なども地域の方の協力も得ながら整え活用し、体験的な学習の充実を図っている。</p> <p>(9) 基礎学力を高めるために、朝の会などの時間を活用してパワーアップタイムを設け、計算力や漢字力などの基本的な力を伸ばしている。また、授業では、練習問題として学習状況調査の過去の問題や単元テストの問題に取り組むことで基礎学力の定着を図っている。この後もパワーアップタイムや補充指導を継続し、基礎学力を高めていく。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 学習への取組	(6) 基本的な学習習慣の形成	「学習の約束」強調週間の設定と継続指導 家庭学習の充実 朝読書の実施	3	
	(7) 思考力・判断力・表現力の育成	自ら考え、伝え合う場の育成 問いや考えがつながる授業づくり 振り返りの充実 ICTを活用した授業の充実	3	
	(8) 学習環境の整備	学習コーナーの充実 参考作品の掲示による啓発 図書活動の充実	4	
	(9) 基礎学力の定着	授業における評価の活用 パワーアップタイムの実施 学習状況の分析と共通理解及び補充指導の実施	3	

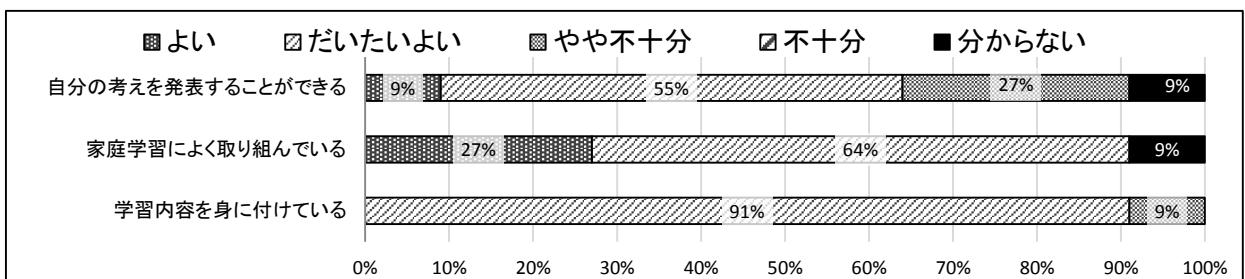
児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



職員へのアンケート結果



読書ボランティア「ミラクルバナナ」さんの読み聞かせ



様々な本を手
に取ることができ
るように、おすす
めの本として「友
情コーナー」を設
置した。



学び合いを効果的に行うた
めに、ICTを活用した授業を実
施している。



一つ上の学年の授業を参観
し、授業態度や発表の仕方、話
合いの仕方などのよい点を自
分たちの授業に生かしている。



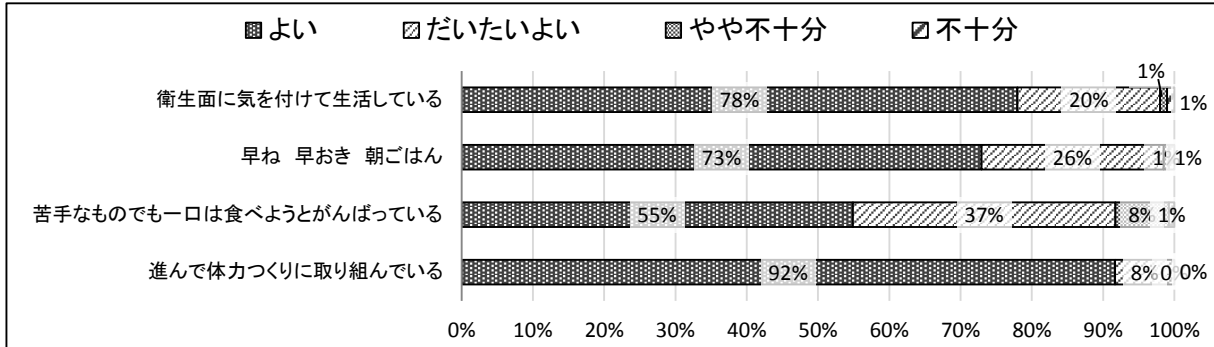
全校の家庭学習ノートを掲
示し、工夫して取り組んでいる
友達のノートを参考に、意欲
的に家庭学習に取り組むこと
ができるようにしている。

Ⅲ 健康と体力

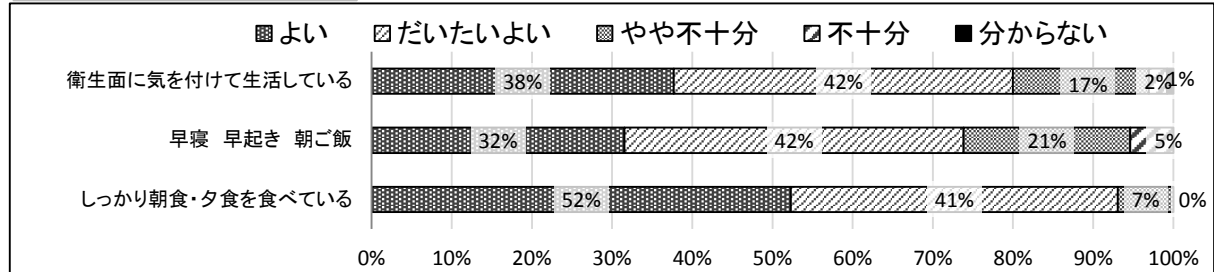
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
体力づくりと健康増進を推進しながら、心身ともに健康でねばり強く物事をやりとげる子を育成しようとしている。	前期	良好	良好	メディアコントロール週間の取組が、メディアの適正な使い方を意識付ける手立てとして成功している。子どもたちは、自分の中でルールを作って使うことができている。メディアや食習慣、生活習慣について家庭でのことであるが、家庭への啓発を続けてほしい。体力づくりでは、遠足も含め、コロナ禍でもよい取組を行うことができている。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>(10)全国的なコロナの流行もあり、手指消毒の徹底、職員による給食前の次亜塩素酸による机や配膳台拭きなどを行ってきた。今後も継続することで、拡大防止に気を配りたい。清掃指導においては、掃除用具の使い方や正しい掃除の仕方を掲示し、担当箇所は教員も一緒に掃除をしている。学年で役割が決まっているため、班長を中心にスムーズに清掃活動に取り組むことができている。歯みがき教室は、今年度はコロナ禍のため飛沫防止の観点から実技はできなかったが、6月に北秋田地域振興局から歯科衛生士の先生をお迎えし、映像資料を使って実施した。正しい歯みがきを怠ると、将来にわたり必ず影響が出てくることを低学年児童も理解することができた。歯みがきカードなどの活用も効果が見られる。メディアコントロールでは、早寝早起きやゲームの時間について、全体的によい傾向にあるものの、一部全く改善が見られない児童も見られ、家庭と連携して改善に向かいたい。</p> <p>(11)食育については児童の実態を考え、「好き嫌いをしない。」という表現から「嫌いな物でも一口は食べよう。」という、取り組みやすい言い方にした結果、数値が大きく上がった。児童自身の、それならできそうだと、やってみようという気持ちに結びつけることができたと思う。実際、一口でも食べてみることで自己肯定感も高まり、次へつなげると考える。栄養教諭との連携では、9月に学校栄養教諭の大越先生を招いて、食育指導を行った。発達段階に合わせ、1・2年生「野菜を食べよう」、3・4年生「おやつのとりにかた」、5年生「食べて元気に」、6年生「献立の工夫」と題して、講話と実技を行った。専門の先生の言葉に、みんな真剣に耳を傾けていた。</p> <p>(12)業間運動では、運動会前と新体力テスト前に「全校マラソン運動」に取り組んでいる。中休みの20分のうち10分、自分のペースでマラソンをしている。異学年交流の場にもなっており、縦割り班の上級生と楽しそうに走る低学年児童も多く見られる。マラソンカードを活用し、秋田県のどこまで走ったかを確かめることができるようにしている。後期からは、体育館で密を避けるため2学年ずつの縄跳び運動を行い、体力の向を図っていききたい。</p>			
	【年度(→次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 健康的な生活習慣	(10)健康な生活習慣の形成	清掃指導の充実 メディアコントロールデーの実施と指導 学級活動(生活習慣)・日常における歯磨き・手洗い指導の充実	3	
	(11)望ましい食習慣の形成	給食指導・食育指導の推進 栄養教諭との連携	4	
7 体力の向上	(12)継続的な体力づくりの実践	体力向上のための体育的活動・業間運動(マラソン・縄跳び)の実施 内外での遊びの奨励	4	

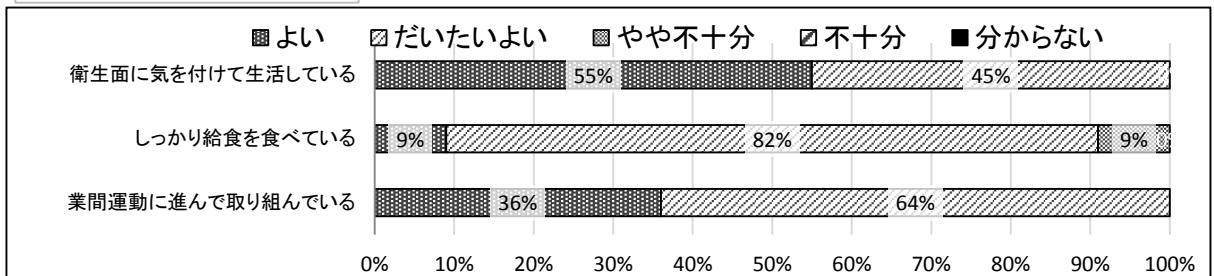
児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



職員へのアンケート結果



非接触型のセンサー式アルコール消毒器と、センサー式蛇口を玄関や校内各所に設置して、感染対策をしている。

マラソン運動は、サンタイムに全校児童で行った。6年生が1年生と一緒に走る微笑ましい場面も見られた。



コロナ感染予防の観点から、映像資料を使っての歯みがき教室を実施。歯科衛生士さんから歯の大切さについてたくさん学んだ。

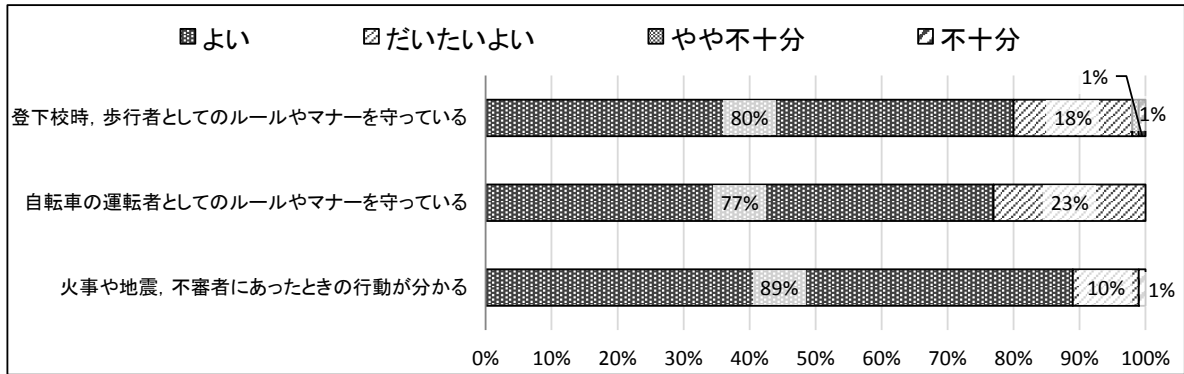
栄養士の大越先生を迎えて2年生で食育授業を実施。児童は野菜を食べることの大切さを実感した。今後、全学年で行う予定である。

IV 安全・安心

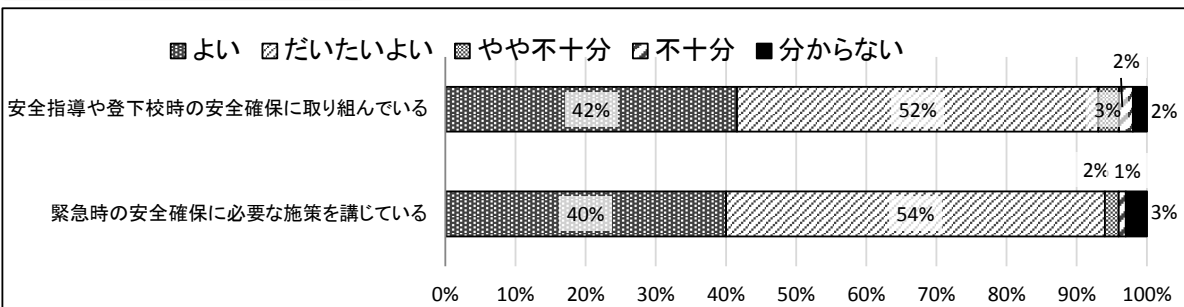
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
		前期	おおむね良好	
児童の安全確保に取り組んでおり、諸問題への組織的対応が図られている。	年度			
	<p>【前期(→年度)】</p> <p>(13) 歩行者として、また、自転車の運転者として、ルールやマナーを守っていると答えている児童が「よい」「だいたいよい」を合わせると9割を超え、交通安全に対する意識が高いといえる。4月に交通教室を実施し、1～3年生は歩行指導、4～6年生は、自転車の乗り方指導を行った。自転車の安全な乗り方については、交通教室の事前事後指導も含め、随時学級でも安全指導を行っている。登校指導、町内児童会などで児童の実態を見取り、継続指導していきたい。</p> <p>(14) 1学期に地震と不審者対応の避難訓練を行った。どちらの訓練も児童は真剣な態度で参加し、アンケート結果からも、児童の危機管理に対する意識の高さが分かる。不審者対応避難訓練では、防犯器具の研修(職員)や警察による防犯教室(児童)も行った。緊急連絡メールについては、今年度も保護者登録が100%となり、新型コロナウイルス感染防止、大雨等に関するメール配信を迅速に行うことができています。また、今年度は、地震の際の連絡網を見直した。今後も適宜見直しを図り、自然災害(地震、台風、暴風雪など)や新型コロナウイルス感染防止に対する対策など、より実質的な危機管理体制を構築したり、危機管理に対する職員・児童の意識を高めたりしていけるようにしたい。</p> <p>(15) 交通教室では、警察の方、上小子ども見守り隊、大館市交通指導隊、PTA生活指導部の方々と連携し、効果的に行うことができた。子ども見守り隊は、下校時の見守りも行っており、不審者に対する抑止力にもなっている。また、市スクールガードリーダーや池内駐在所巡査長にも朝の登校指導に協力していただき、児童の安全に対する意識を高めることができた。</p>			
自己評価の概要と学校の改善策				

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 安全教育と安全管理	(13) 校内外における児童の安全確保	交通教室の実施や防犯意識の啓発 通学路点検 登下校指導 校舎内、校地内の安全点検	3	
	(14) 緊急時を想定した事前・発生時・事後の危機管理	緊急連絡網の作成と緊急連絡体制の構築 災害別・季節別訓練の見直しと実施	4	
	(15) 各諸団体と連携した安全確保・安全指導	交通安全指導 登下校の見守り活動の実施	4	

児童へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



4月に交通教室を実施。池内駐在所・大館警察署、子ども見守り隊、市交通指導隊、PTA生活部の方々が協力してくださった。1年生から3年生までは歩行指導、4年生以上は自転車の乗り方の指導を行った。指導者の方々は、打合せ会を行い、効果的に指導ができるような人員配置を行った。また、学級では、事前指導・事後指導もしっかりと行い、交通安全への意識を高めることができた。



5月に、地震を想定した避難訓練を行った。全校児童は、緊急地震速報や放送を聞いて真剣に取り組んだ。

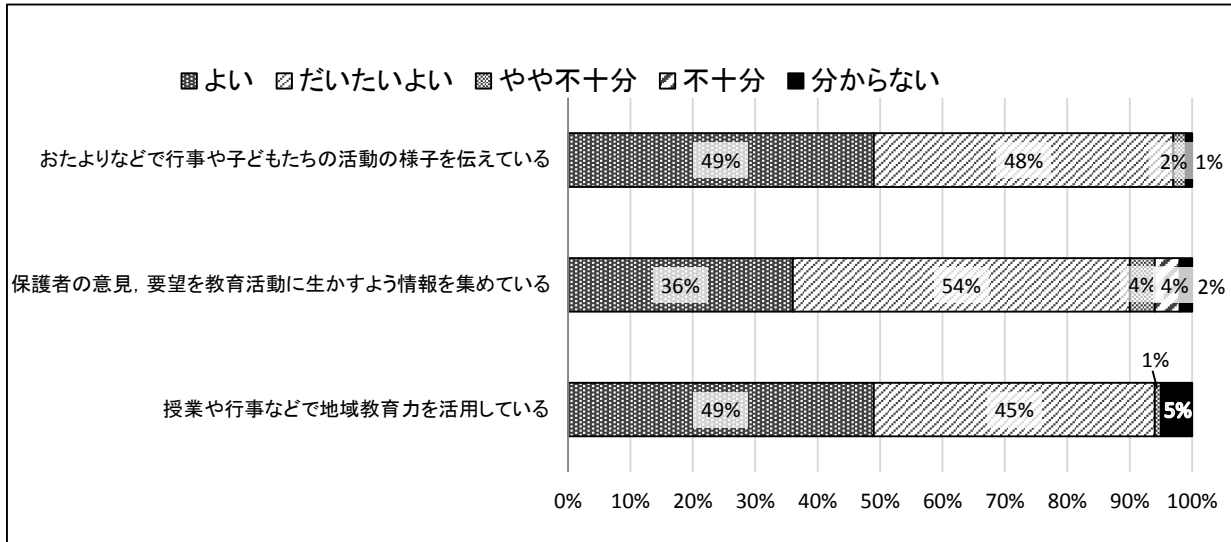
7月に、不審者を想定した避難訓練を行った。今年度は、不審者が侵入時に迅速に対応できる職員が参集できるよう計画した。警察署の方による防犯教室では、不審者への具体的な対応について、掲示物を用いて、分かりやすく教えていただくことができた。

V 保護者・地域との連携

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者や地域に学校の様子が伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	学校の情報発信について、保護者や地域の方が学校報、学年便り、ブログなどで、普段見ることができない学校の様子を知ることができてよい。地域人材や地域素材をよく活用できているが、体験するだけでなく、そこから地域の課題を見付け、自分たちでできることを考えるなどしながら、学習したことを発信し、ふるさとに対する思いを育てていけるように取り組ませてほしい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 (16)(17)学校の情報発信や情報受信について、保護者の方からは、よい・だいたいよいを合わせると97%という高い評価を得ている。学校報や学年通信に加え、学校での児童の様子を毎日ブログで紹介している。特に、修学旅行でのリアルタイムで更新したブログは好評だった。また、行事や児童の安全面に関するなどを学校メールでこまめに連絡をしている。保護者や地域の方々からいただいたご意見や要望などには、ていねいに対応し、経営に生かしている。 (18)異校種との連携では、一中学区小中連携研究会(桂城小会場)、小中合同あいさつ運動、こども園の保育参観(教頭・1年担任)、特別支援学校との居住地交流を行った。また、一中生職場体験として本校に卒業生4名が来校し、全校児童と交流した。今後も中学校やこども園などとの交流や情報交換を通して、連携を密にしていきたい。 (19)今年度も様々な方々にご協力いただき、多様な学習や豊かな体験が行われている。総合的な学習の時間では、3年生の果樹体験、4年生の餌釣ファーム見学や5年生の田植え、保護者も参加した全校なし狩り遠足など、地域の方に協力いただきながら豊かなふるさとを体感することができている。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 情報の受発信と学校経営への反映	(16)保護者・地域への定期的な情報受発信	各種おたよりの発行やホームページの更新・改善による情報の発信 学校評価アンケート等での情報の受信	4	
	(17)学校の使命と保護者・地域の声を生かした経営	学校評価・経営反省を生かした経営計画の修正と改善	4	
10 幼保・小・中の連携	(18)異校種間の情報交換と多様な連携	授業参観等と交流行事の実施 一中学区小中連携研究会 幼小連携活動	3	
11 豊かな体験活動	(19)地域の教育力の活用	とびっきりの上川沿・授業・行事での地域素材・人材の活用 「上小教育の日」の実施 PTA総務部と連携した出前授業の実施	4	

保護者へのアンケート結果



総合的な学習の時間「とびっきりの上川沿」では、毎年たくさんの方々にご協力をいただいている。3年生は、石垣果樹園での摘果作業体験の他、校地内のニュートンの木の世話や観察を続け今年も130個余りのりんごの実をつけることができた。4年生は餌釣りファームの見学、5年生はJAあきた北青年部のみなさんの協力を得て今年も稲作体験を行った。6年生は、地域の企業についての調査を行っており、この後訪問を予定している。全校なし狩り遠足には保護者も参加し、ふるさとへの愛着心を育むことができた。



7・8月の小中合同あいさつ運動や民生委員の皆さんとのあいさつ運動で、元気なあいさつを響かせた。



老人クラブの方々とのサツマイモ苗植え付け



外部講師による茶道クラブの指導